

2017-18-4 馬の皮膚 杉江建之介

提出機関

Department of Veterinary Pathology / Free University of Berlin, Germany

症例

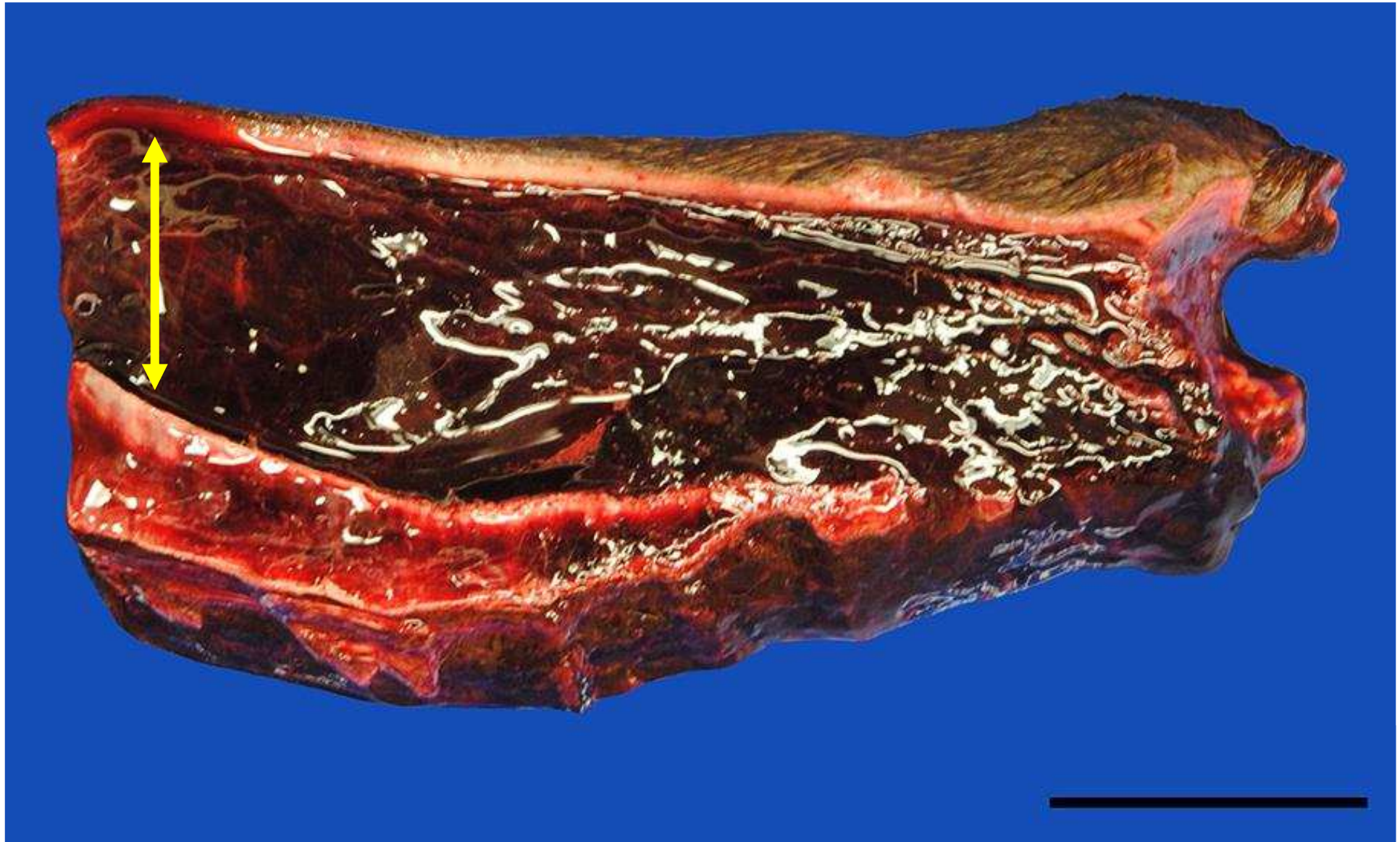
6歳，雌，温血種 warmblood, (*Equus ferus caballus*) , ウマ種

病歴など

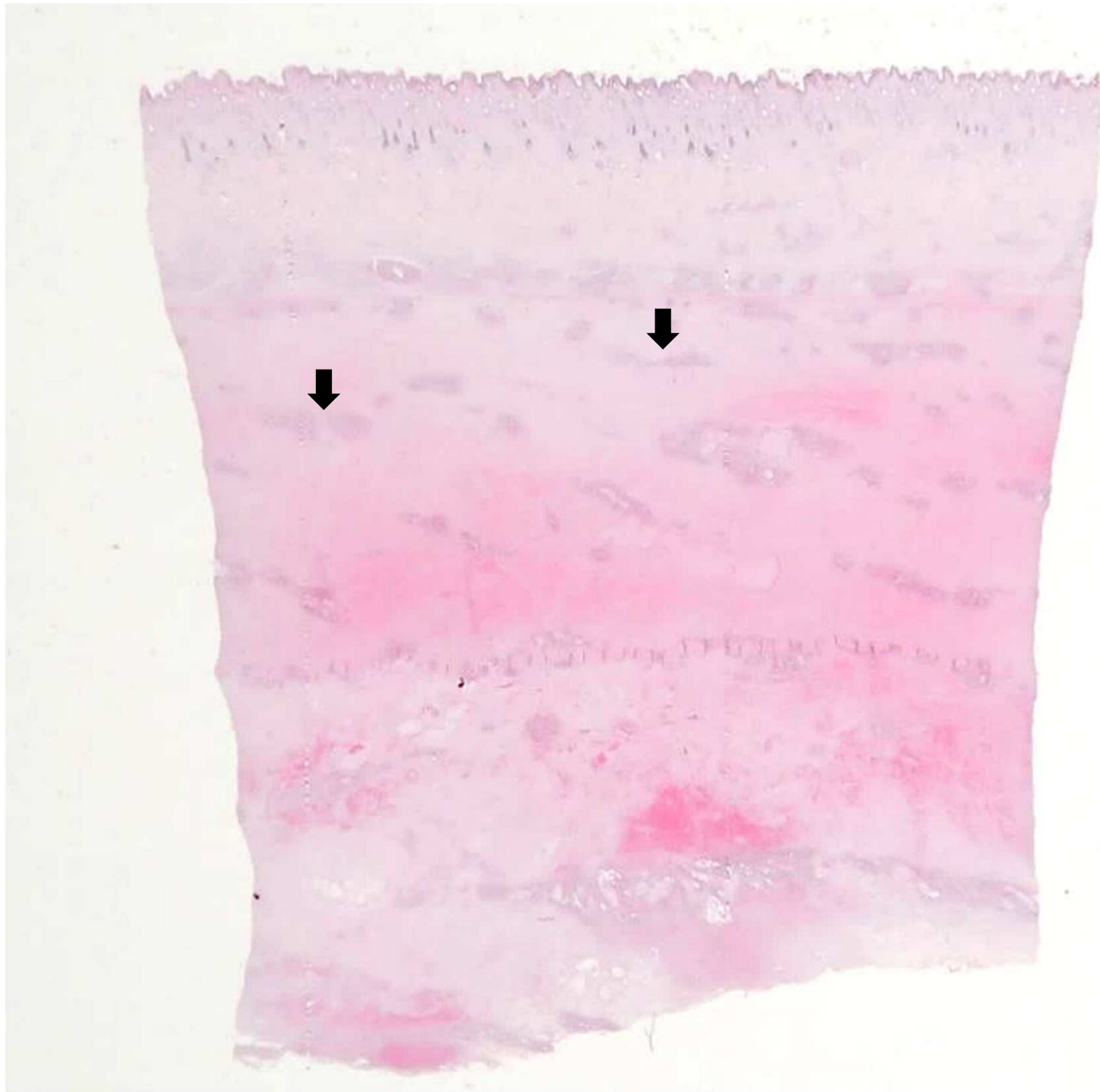
- 四肢，腹部，頭部に重度皮下浮腫.
- 口や膈などの粘膜に多巢性の点状及び斑状出血.
- 抗生物質，フルニキシン（非ステロイド系抗炎症薬），
高用量のデキサメタゾンで治療

検査

- 体温：39.7°C ↑（正常値 37.0～38.0°C）
- 白血球数：15.7x10⁹/l ↑（正常値 5～10x10⁹/l）
- 右咽頭喉リンパ節から *Streptococcus equi subsp. equi* 分離



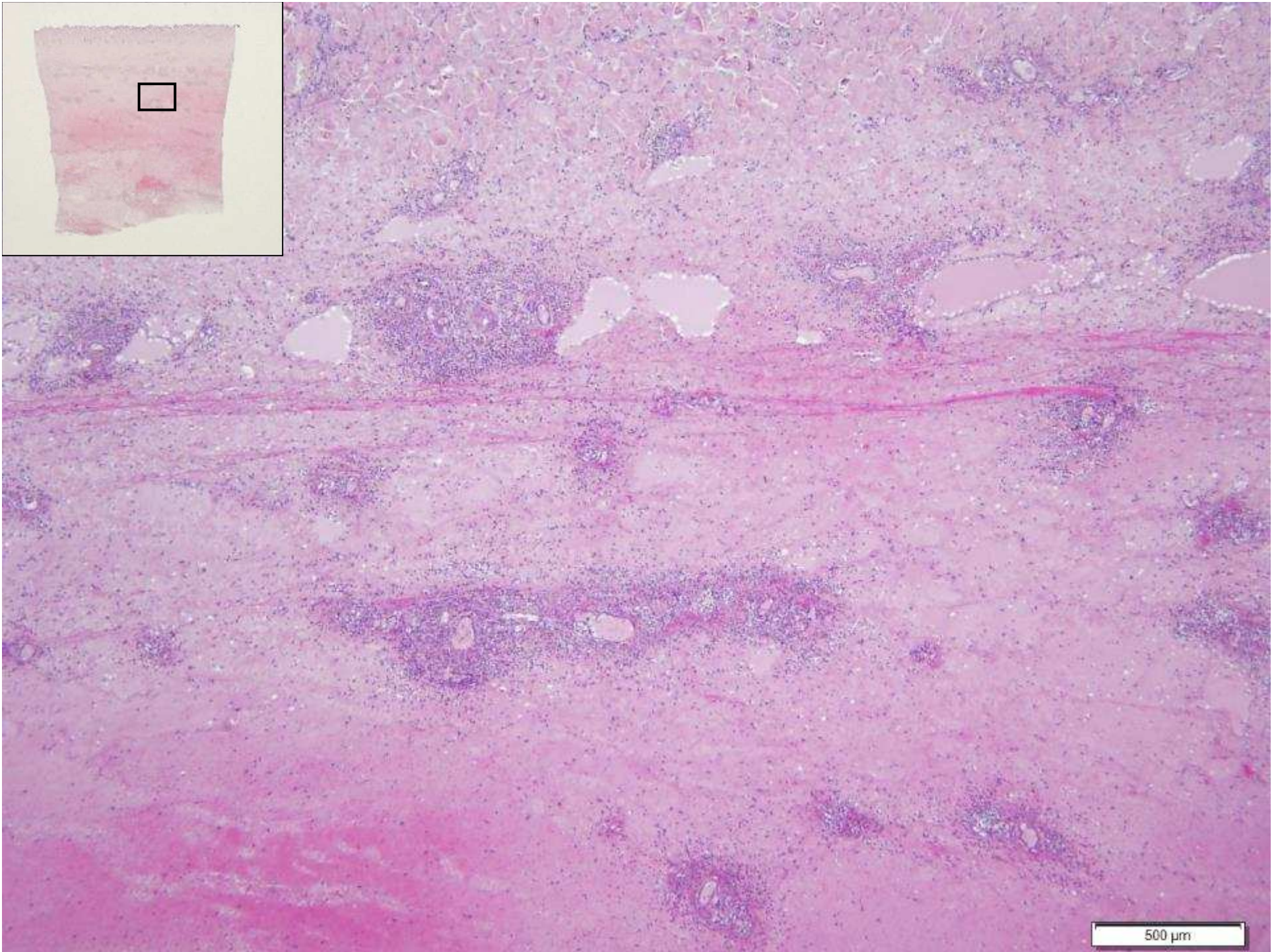
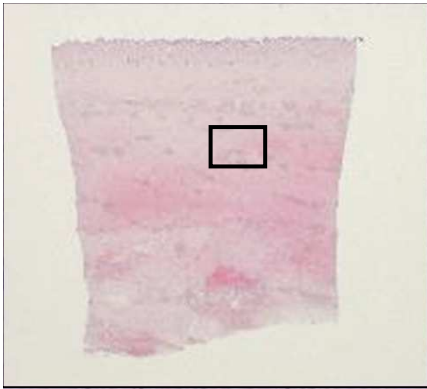
- 四肢，腹部腹側面の皮下浮腫を伴う肥厚（厚さ5cm）。
- 粘膜，胸膜，肺，心膜，筋膜における点状及び斑状出血。
- 右側咽頭喉リンパ節に膿貯留。



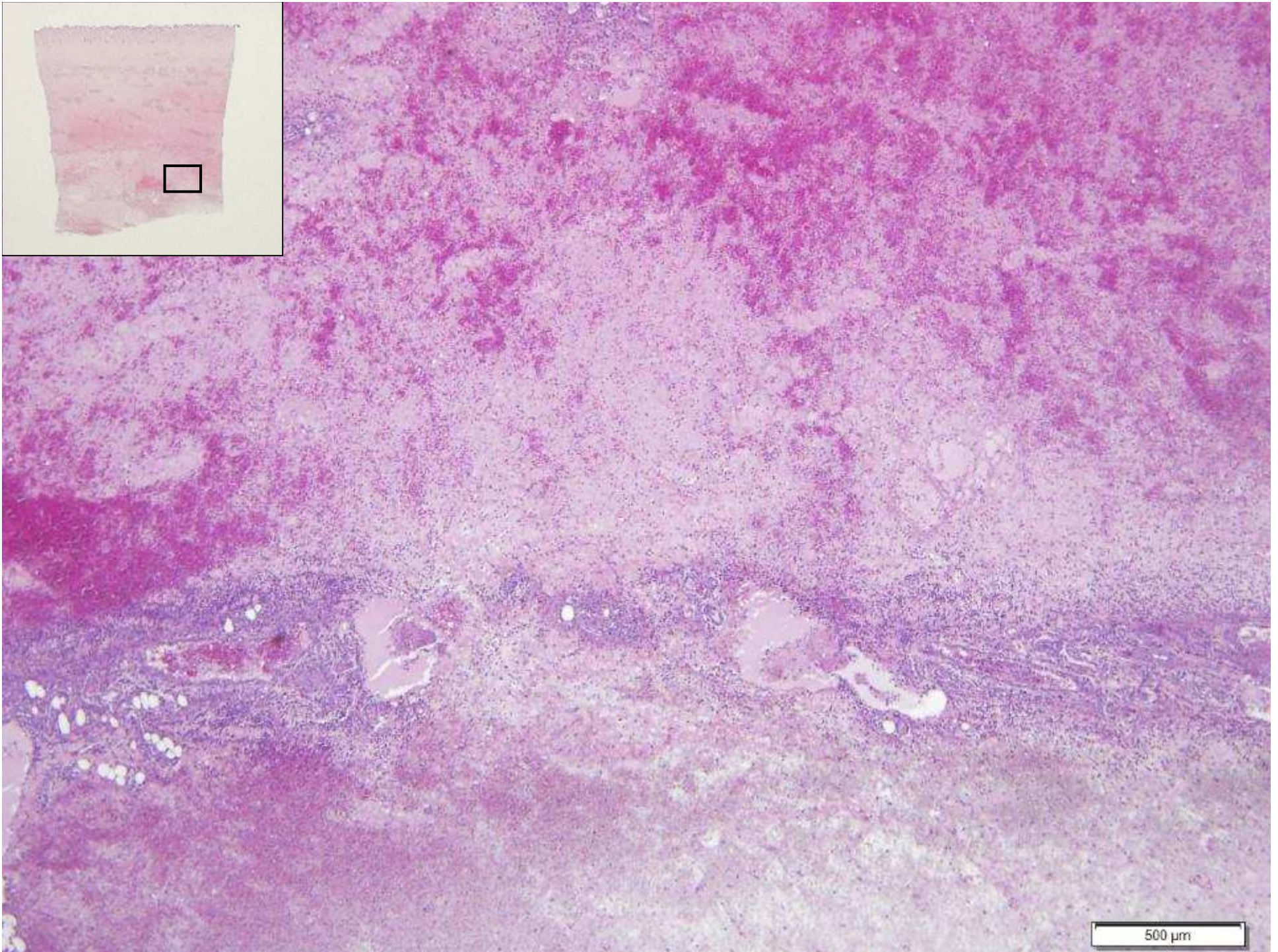
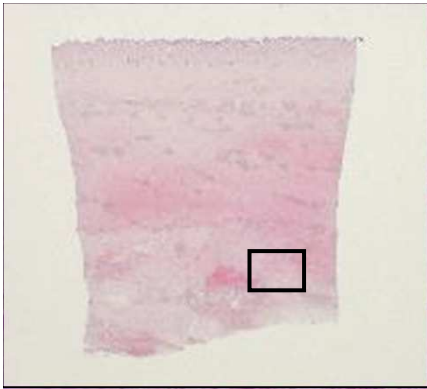
表皮

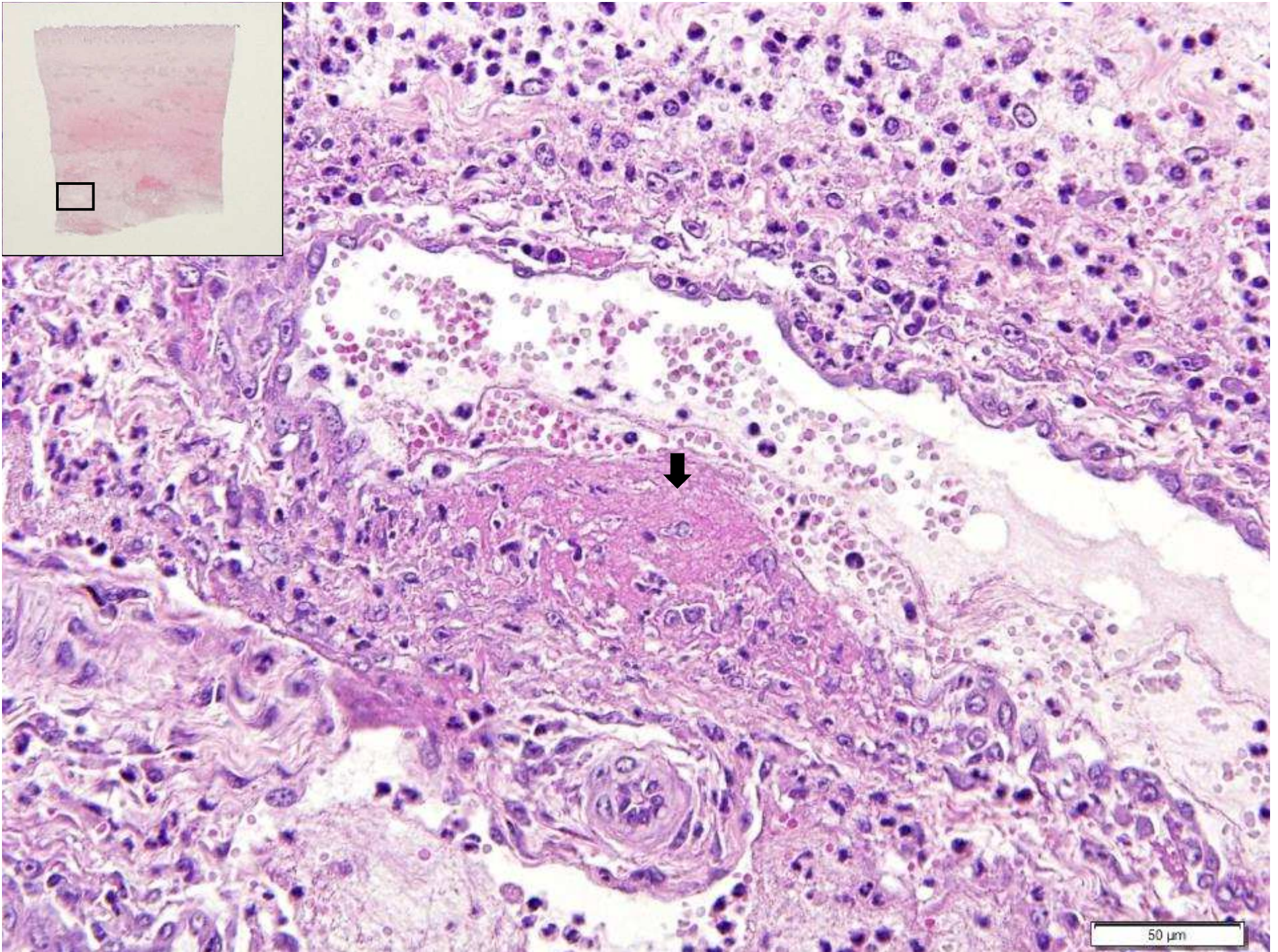
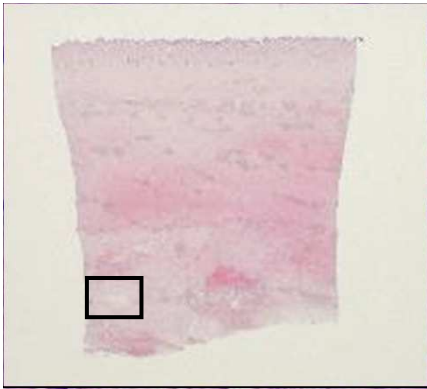
真皮

皮下組織

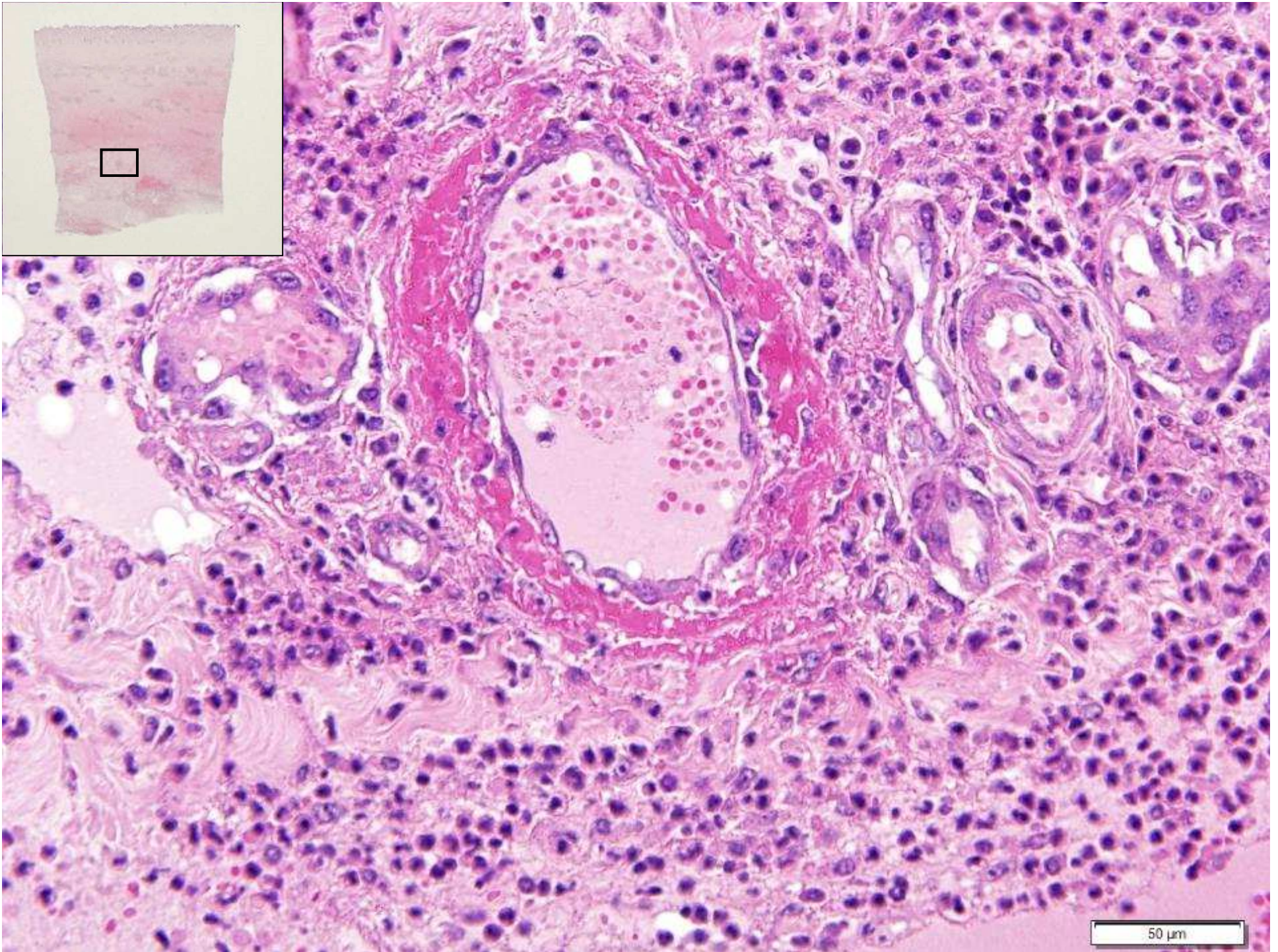
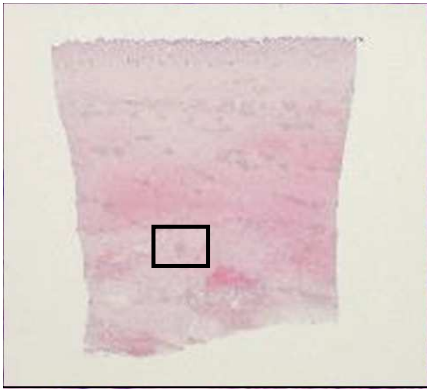


500 μm

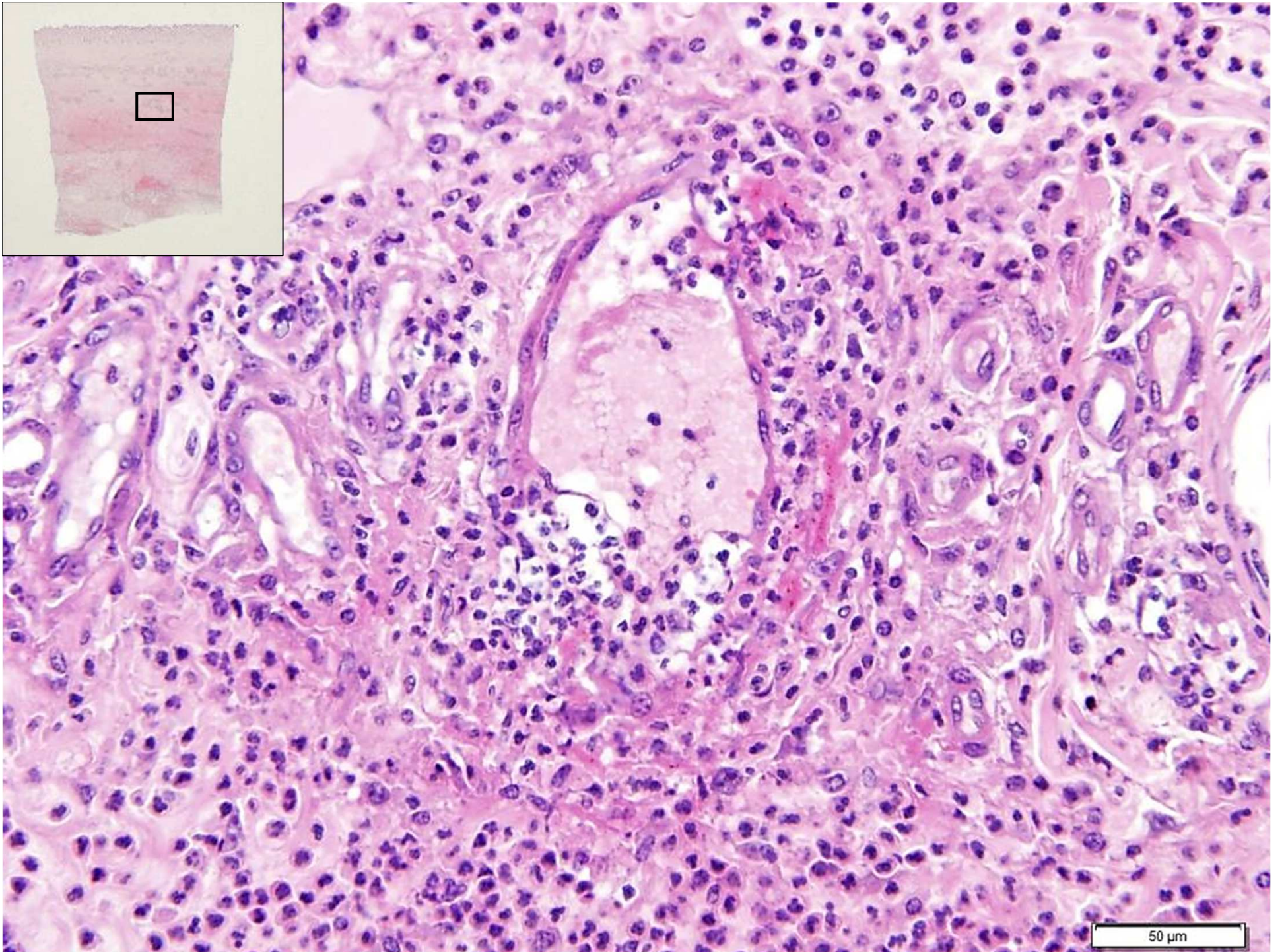
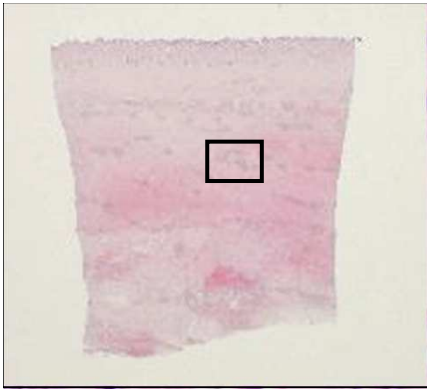




50 μ m



50 μ m



提出者の診断

皮膚，**皮下組織**：血管炎，重度，**急性**，びまん性，**白血球破砕性**。

重度の水腫**多発巣状性**出血及び皮膚壊死を伴う。

Skin, **subcutis**: Vasculitis, severe, **acute**, diffuse, **leukocytoclastic** with severe edema, **multifocal** hemorrhage and dermal necrosis.

JPCの診断

有毛部皮膚及び**真皮**：血管炎，壊死性，びまん性，重度。

著しい出血水腫，及び中等度**好中球性**皮膚炎及び**蜂窩織炎**を伴う。

Haired skin and **dermis**: Vasculitis, necrotizing, diffuse, severe with marked hemorrhage, edema, and moderate **neutrophilic** dermatitis and **cellulitis**

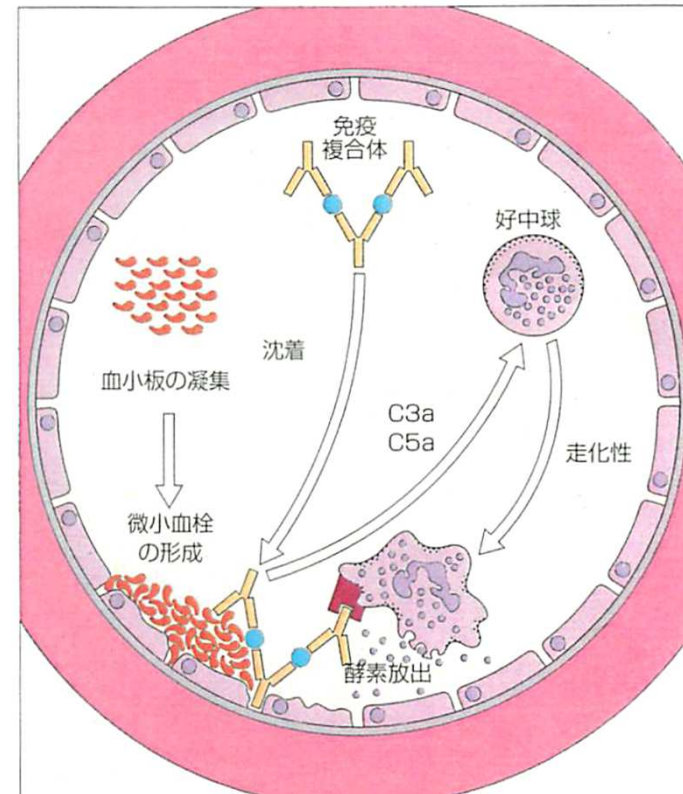
提出者 / JPCのコメント

出血性紫斑病 Purpura hemorrhagica

- 頭部・胸腹部の腹側面・四肢の皮下浮腫，粘膜の点状～斑状出血（紫斑）。
- IgA主体のⅢ型アレルギー。
- 血管壁への抗原抗体免疫複合体の沈着→血管及び血管周囲を障害。



Compendium Equine 2006; 1:82-92



免疫学イラストレイテッド原著第5版 P. 331

提出者 / JPCのコメント

出血性紫斑病 Purpura hemorrhagica

- 肉眼所見：皮膚及び粘膜の出血による赤変～紫変。
境界明瞭な浮腫（遠位四肢→頭部・腹部）。
重度では、肺や筋肉などにおける紫斑。

免疫複合体が原因，白血球の壊死片を含む血管炎

- 組織所見：白血球破碎性血管炎，フィブリノイド壊死，
血管周囲の好中球浸潤，水腫，出血，フィブリン析出。
- 細菌感染，ウイルス感染，ワクチン，薬物投与後などにより発症。
ほとんどが感染→出血性紫斑病のケース。

Infection or exposure to <i>S. equi</i>	17	33%
Infection or exposure to <i>Corynebacterium pseudotuberculosis</i>	9	17%
Vaccination against <i>S. equi</i> (SeM)	5	9%
Respiratory infection of unknown aetiology	5	9%
Open wound	2	4%
Unknown history of infection	15	28%
total	53	100%

提出者のコメント

本症例について

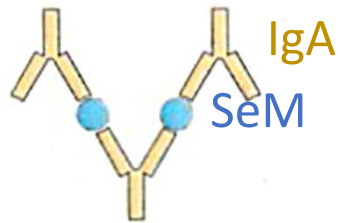
S. equi
(腺疫 Strangles)



出血性紫斑病
Purpura hemorrhagica

血中IgA抗体↑ + IgG抗体↓

⇒ *S. equi*のMタンパク (SeM) による免疫複合体形成を促進？



腺疫

S. equiによる頭部，体表のリンパ節の化膿を主徴とするウマ科の伝染病。
感染馬の膿汁や鼻汁により伝播。

感染馬の約5.4～6.5%，感染後2～4週間で出血性紫斑病を続発。

膿瘍の自潰時に血中免疫複合体量が上昇することで発症？

JPCのコメント

出血性紫斑病 Purpura hemorrhagica の鑑別

- 馬ウイルス性動脈炎（アルテリウイルス）
単核細胞及び内皮細胞を標的とする。海外伝染病。
血管炎，発熱，元氣消失，眼窩周囲及び眼窩上の**浮腫**，**点状出血**，結膜炎，白血球減少症，涙液漏出，呼吸器症状，疝痛，下痢，流産などみられる。
- アフリカ馬疫（馬オルビウイルス）
ヌカカによって伝播され，内皮細胞に親和性をもつ。海外伝染病。
主に項韌帯及び眼窩上部窩の**浮腫**，肺水腫，心筋障害を引き起こす。
- ヘンドラウイルス感染症
馬やヒトで致命的な肺炎，脳炎及びまれに**皮下浮腫**を引き起こす（人獣共通感染症）。
- 馬ヘルペスウイルス-1
中枢神経系，内皮細胞に親和性もつ。
発熱，呼吸器症状，流産，神経症状，慢性ではまれに皮膚及び皮下組織に**点状出血**，**浮腫**を引き起こす。